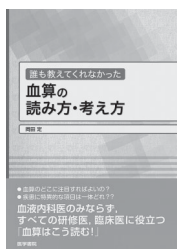


書評

[評者]

神田善伸

自治医大附属さいたま医療
センター教授・血液科



誰も教えてくれなかった 血算の読み方・考え方

岡田 定 著

B5判 頁200 2011年
定価 4,200円(本体4,000円+税5%)
[ISBN978-4-260-01325-3]医学書院刊

岡田定先生が執筆された『誰も教えてくれなかった血算の読み方・考え方』が届いた。岡田先生といえば、学生・レジデントの人気No.1である聖路加国際病院で内科統括部長・血液内科部長として活躍され、教育に熱心であることでも有名で、数多くの教育的著書を執筆・編集されている。特に『内科レジデントアトラス』は今、私の目の前の本棚のすぐ手が届くところに並んでいる。「血算」だけをテーマに一冊の書籍にまとめ上げたという本書にもおのずと期待が高まる。

血液の疾患というと、難しい、怖い、という印象が先行し、専門医以外からは敬遠されがちである。日常診療においても、白血球が少ない、ヘモグロビン値が低い、血小板が少ない、ということだけで、自分でしっかりと考察することなく即座に専門医に紹介されてくることが多い。もちろん、重篤な疾患が潜んでいる可能性があるので、診断に自信がない場合に専門医に紹介することは重要であるが、実際にはこれらの多くは少し考えれば自分自身で診断にたどりつくことができるものである。教科書に書かれていることをしっかりと読めば、初期対応としての鑑別診断は容易に実施できる。しかし、インターネット全盛の時代において、分厚い文字だらけの教科書を読み解くことは簡単ではないのかもしれない。

書籍全般の売り上げが低下しているインターネット時代においても、本書は、血算の読み方・考え方をマスターするための最短コースとなることであろう。既存の書籍との違いは明確である。これまでも血算の異常に対してどのように対応すべきか、ということは

多くの書籍に記述されてきたが、それらは一冊の書籍のごく一部分として記載されたにすぎない。2011年4月28日現在、Amazonのホームページで「血算」のキーワードで検索を行うと、当然のごとく本書が1番に表示され、以下、書名に「血算」の二文字が含まれるものは一冊もない。そして、なによりもの特徴は、さまざまな血算の異常のパターンに対して「スーパールール」という血算の読み方の原則についての紹介があり、それに続いて多数の実際の症例に基づいて診断までの思考過程を1ステップずつ丁寧に解説している点である。その後、もう一度、「ワンポイントレッスン」「基本ルール」で確認する。予習、復習がワンセットになり、いや応なしに血算の読み方・考え方が頭にたたき込まれる。図表が多く、読み続けることになんら苦痛を感じさせない配慮もありがたい。「脱水」のワンポイントイメージとして用いられている砂漠のらくだの写真は岡田先生がご自身で撮影されたものだろうか？機会があれば伺ってみたい。

ところどころに診療現場での逸話を紹介する「ちょっと休憩」というコーナーも挿入されている。「Paraneoplastic love」なんて、タイトルだけで引き込まれてしまうではないか。このように、医学書というだけでなく、一般文芸書のような感覚で、一冊の読み物として楽しむこともできるのである。そうして最後まで読み終えると、こう感じるはずだ。

「なんだ、血算って簡単じゃん。」

私だけでしょうか？

いいえ、誰でも。